

今あるものづくりを その先の未来へ

e 建具

TATEGU

2013

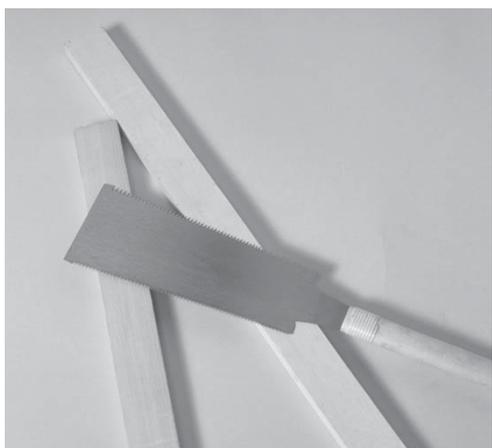
2月号



木材資材価格が急騰

木材・合板・アルミの資材価格が高騰

為替の影響、在庫不足から軒並み上昇



資材高騰は価格改定の機会

急速な円安、海外の製材事情の悪化、国内建設投資増加などの複数の要因から、木材、合板、アルミ資材の価格が高騰している。今後、年度末に向けた完工物件が控える中、資材価格の高騰と在庫量の逼迫は建築関連の事業所にとって悩ましい問題となりそうだ。

林野庁が発表している木材価格では、今年1月の製品卸売り価格において杉の正角（105mm角・長さ3m）が対前月差1400円増の4万7800円に高騰。海外の丸太や製材品が昨年末からの円安で卸価格が上昇している関係もあり、国産木材への切り替えを模索している動きも価格高騰を後押ししている。国産杉材丸太の卸価格も12月に比べて3%

程度上昇しており、柱などの構造用や針葉樹合板用など、用途の如何に関わらず、大幅ではないものの価格は上昇傾向が続いている。

輸入木材は全て為替の影響を受けるため、円安基調となっている段階で価格の変動は避けられない。加えて、これまで国内の住宅産業が活気に乏しかったため、問屋や販売店が長期在庫を嫌い、当用買いの姿勢を続けてきた影響もある。昨年後半から新築物件が伸びてきたが、こうした動きに対して資材の手当ては積極性が乏しかった。安値の在庫品が少なく、市場は価格変動後の製品を新たに購入しなければならず、海外品は軒並み強含みになっている。

財団法人日本木材情報センターが1月に東京・大阪・名古屋の木材流通業者に向けて実施したアンケートによると、国産材も海外材も価格上昇の段階にあるという結果となった。特に海外材は米梅正角、米梅防腐土台角、米梅割物、米松平角が2月から3月にかけて価格高騰すると判断。また、北洋赤松垂木、ハワイトウッド集成管柱、レッドウッド集成平角は既に昨年の段階から急騰し、春以降も高値が継続するという

見通しとなっている。この中でもホワイトウッド集成管柱の品不足は顕著であり、このため柱材を国産の杉材に切り替える工務店も増えているという。

合板も輸入型枠合板、構造用針葉樹合板共に春先に向かって強含みの状態にある。国内の針葉樹合板は出荷量が生産量を上回る月が連続しており、厚物を中心に在庫不足が懸念されてきた。実際、昨年半ばに底値を脱して以降、価格はメーカー側の主張が通るようになり、全般的に値戻しの流れの中にある。昨年10月頃、針葉樹構造用合板12mm厚3尺6尺板の問屋卸価格は800円前後の底値にあったが、現在は1000円程度アップしている。輸入合板も型枠合板を中心に12月から輸入量が増えてきたが、商社は価格アップを唱え、年明けからは新規の価格帯の製品が入荷してきた。これは産地の事情も大きく、インドネシアでは労働者の最低賃金を値上げする法案が可決され、合板や製材の工場での人件費が大幅に増えたことも要因の一つだ。採算が合わないために操業を停止した工場もあり、現地の生産事情の悪化も価格高騰の要因となっている。

ぐんまの建具・木製品展示会 都心のユーザーに向けて発信

群馬県建具組合連合会

群馬県建具組合連合会（大澤直也会長）は2月8日から10日までの3日間、東京都中央区の群馬総合情報センター「ぐんまちゃん家」で「ぐんまの建具・木製品展示会」を開催した。



組子細工を現代の製品に応用

この展示会は群馬県の建具組合員が製作した作品を東京などの一般消費者や都心部のバイヤーに向けて情報発信する目的で開催されている。

また、群馬県の木工職人の技能を広く知らせることで、新規の販路を獲得する狙いもある。企画や会場の使用に関しては群馬県産業経済部工業振興課の協力を得て開催した。

来場者向けに無料でマイ箸作りや組子細工コースターなどの体験コー



組子コースターの製作体験

ナーを設置。マイ箸作りは箸の型を抜いた台に木材を置き、鉋で箸を成型していく。組子細工コースターは予めキット加工した三ツ組手の麻の葉柄をコースターにしたもの。実際の組子細工を作る過程を体験できる。展示作品には組子入り屏風や衝立などが多数用意され、組子を部分的に活用した現代風な作品も出品された。また、小品は手頃な価格設定とし、来場者が気軽に購入できるように工夫している。宮前木工所は組子入りテーブルと組子入り時計を展示。組子入りテーブルは麻の葉柄よ

カード立てなどの親子向けの木製品を販売。カード立てにはオイル仕上げと着色仕上げの2種類が好みによって選択できる。大澤木工は組子入りの行灯、ブラミッド型のスタンド照明など、木材を使った日用品を即売。中島建具店は胡麻柄、麻の葉柄、桜亀甲柄など多彩な組子細工を施したミニ屏風を製作し、小規模な作品ながらも建具技能を凝らした製品を披露した。

今回は協賛出品として表具業界から矢島表具店が二曲及び三曲のミニ屏風を出品。2面及び3面の屏風の使い方を様々なバリエーションで提案した。来場者は建具技能を応用した木製品に関心を示すと共に、比較的金額を抑えた小品や衝立類を購入する姿が目立った。

平成25年講演会・新年会 組織力とブランド力を強化

鹿沼建具商工組合

鹿沼建具商工組合（白石修務理事長）は2月16日、栃木県日光市の鬼怒川プラザホテルで平成25年の新春

特別講演会と新年会を開催した。

講演会の冒頭、白石理事長は「建材商社が発行している機関誌の中で、東京大学大学院の安藤直人教授の話が載っており、その中で安藤氏は『日本の木材建築技術は世界から20年遅れている』と言っていた。」